

|| 会員のために ||

# 霊気療法 のしおり

心身  
改善

臼井霊気療法学会編

## はじめに

白井靈氣療法は、精神療法的一種でして、病氣にならないように、日頃から心身を強健に保ち、また、不幸にして病氣になった場合でも、ほとんど医薬に頼らないで、治癒する方法であります。すなわち、靈氣療法は、人間の潜在意識に作用して、それぞれの人の身体に持っている、病氣治癒能力＝自己療能、の自然の働きに、強い援助を与えて、病氣の予防や、治病しようとするのです。

靈氣療法が、人間の靈氣によつて、自己療能を高めることであるからには、老・若・男女を問わず誰にでもできることであり、その弊害は、全然ありません。誰も、一ぺんこの療法を得ますと、その効果の素晴らしいのに驚くのであります。

さて、それでは、靈氣療法とはどんなものであるかと云うことを現代の若い人達にもよく理解できるように、本会の各師範の方々の著書や、口伝や、体験談等を基本にして、まとめたものが、この「しおり」です。

よくお読みいただいて、自己の心身改善を一日も早く修得されるときにも、多くのお知り合いの方に、この素晴らしい霊気療法を知ってもらって下さい。

昭和四十九年九月

心身  
改善  
白井霊気療法学会本部

会 長 和 波 豊 一

## 目次

はじめに

本会の意義・・・ 7

本会の歴史・・ 8

本会の組織・・ 13

本会での修養法——二つの目安・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 16

雑念をはらう・・ 16

教義五戒の説明・・ 18

靈気が強くなる方法——本会修養行事について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 37

精神修養を積むこと・・ 37

靈授を受けること・・ 37

臼井先生の嚴命と教訓・・・ 42

霊学講座の数々	49
霊気 の 存在	49
霊気 の 働 き に つ い て	51
体 は 魂 の ま ま に 動 く ― 純 心 無 垢 に な れ	54
立 派 な 霊 能 者 と は	57
明 治 天 皇 と ジ ョ ン バ チ エ ラ ― 博 士 の こ と	59
自 然 治 癒 能 力 に つ い て	60
治 療 に 当 っ て の 心 得	62
治 療 の 心 得	63
霊 気 療 法 の 特 徴	66
病 腺	66
毒 下 し	67
交 血 法	68

念 達	69
体験を多く重ねること	71
反 応	74
医師に対する注意	75
靈氣療法は人間に限らず万物に効果あり	76
靈氣療法指針の説明	78
首から上の部	78
内 臓	83
諸疾患	92
おわりに	100



## 本会の意義

白井靈氣療法は、第百二十二代明治天皇のお作りになった数多くの和歌の中か

ら、百二十五首を選出して心の糧とし、

肇祖ちようち白井先生の教えである五戒を、日々守り、自己の心身の練磨向上を計りなが

ら、自他の健康保持と、家庭・社会・国家・世界の平和と繁栄と幸福を増進させることを目的としています。



## 本会の歴史

白井龜男先生（一八六五～一九二六）は、青年時代、苦学をしながら欧米に留学されたこと数回に及び、職業も、官吏・会社員・新聞記者・布教師・教誨師・実業家などあらゆる人生経験を積まれ、社会の裏・表の内情を肌で感じつつ、

「人生とは？」

と言う大問題に取り組まれたのでした。

「人生の窮極は、安心立命を得ることだ」と第一の悟りを開かれたのです。

以来、禅門に入り、約三か年の修業をされましたが、次の悟りが仲々得られず、思い余って身の処置を師に相談されました。師は、直ちに

「一度死んでごらん」

と返答したとのことでした。

先生は、なかなか悟れず、師から「死ぬ」と云われ、「も早これまで」と覚悟し

て、早速、京都・鞍馬山の奥五里(二〇料)の山中に籠って断食を開始されました。三週間目の真夜中頃、頭脳のご真中に落雷を受けたような強烈な衝動を感受し、そのまま、前後不覚に陥ったのです。

ふと気が付いたのは朝が白々と明け始めた頃で、その目ざめは今まで味わったことのない、実に心身爽快な気分であったと聞きます。多分この時、強烈な宇宙靈気を、心身に感受されたものと思われます〔大正十一年四月(一九二二)〕。

下山の途中、石につまづいて、足の指を怪我されたとき、手を当てる治療したのに始まり、さらに工夫研究の後、これを多くの人々に伝授する方法を発見されたのです。

先生は、私欲なく、虚心胆懐で、何時でも何処でもただちに無我の境地に入るこ  
とができました。

先生は、断食修業が終ったとき、宇宙の靈氣と、体内の靈氣が相互交流する――  
「宇宙即我」「我即宇宙」の超靈感を受けられたのです(大宇宙と、人体は全く同一

のものと言うこと)。

大正十一年四月、この喜びを独占することはできないとして、靈氣療法の教義を作って、本会を創設されました。

先生は、

「靈氣療法には、むづかしい理窟はいらない。自分の最も近い所に真理が含まれている。ただ、手を当てて病氣などが治るということは、まだ現代科学では証明されていけない。けれども、実際は病氣は治る。

人は、『そんな馬鹿なことがあるものか』と言うであろう。私は、気の毒ながら、云った人は、自分の無智を自ら表明するものである。」

と嘆いておられました。

しかし、先生は、

「この靈氣療法は、何時の日か、きっと科学的に証明される時期がくるに遅くない。現代の人智程度では、説明より実証が先に現われたという以外にはない。」

と、確信を以って述べておられます。

現に、分子学・原子学・電子学などの研究により、学問として、また実際に解明されております。各学者の間で、次は靈子学の新分野に取り組んでいる人もあります。

先生の身を捨てての御修業の結果、本会に残された三大発見の治療法があります。

1、血液交換法

2、丹田治療法

3、病腺靈感法

これは、万物とくに人類のためには特筆すべきもので、他の部門にはありません。素晴らしい発見であり、とくに病める者にとっては光明であります。

最初に靈授をされた場所は、東京渋谷の原宿でした。

以来、五十余年間、限らない多くの人々の病める肉体と、迷える心を救い続け、今日もお、多数の会員が全国に拡がって活躍を致しております。

## 本会の組織

本会は、次のような仕組みをとっております。

六等 新入会者

五等 各自の修業によって

四等 師範の認定により授けられる。

三等 師範認定により奥伝々授

二等 現存者では該当なし。肇祖臼井先生のみ

一等 空位

三等で奥伝が伝授されます。

奥伝は、各自の修業の度合により、前期・後期に分けて授けられます。これが修了しますと、神秘伝が伝授されます。

これ等が修了しますと、現存師範の認定を得て、

師範格

師範

大師範

の称号が与えられます。

この中より、霊能が顕著で、治療の成果が優秀で、本会のために、いろいろ貢献をされた会員を次のように選び出します。

会長 1名

理事 5名

評議員 14名

幹事(庶務会計) 1名

これらの人が、会の運営を行ないます。

〔注〕ここに言う等位は、序列ではありません。あくまで、自己の厳しい修練により得るものです。

代々の会長は、常に本会々員の中で、臼井先生や、現存師範の人よりすぐれた霊能者の出現を

望んでおられ、靈的向上に無限の修練を励げむように訓示されています。

奥伝は、発靈法・打手治療法・撫手治療法・押手治療法・性癖治療法(以上前期)  
・遠隔治療法(後期)等があります。

まず、初伝を受け、その成績顕著で靈氣療法に熱心な人に伝授されます。



## 本会での修養法——二つの目安

### 1 雑念をはらう

明治天皇の御製を奉唱して、一刻前までの雑念一切をはらいます。

### 明治天皇の御製を奉唱する理由

第二百二十二代明治天皇は、歴代天皇の中でも大変勝れた霊能を持っておられました。

天皇の御人徳は、太陽の光線のように、至る所に照りそそぎ、その感情は、大海原のように広く、その意志は大地のように慈愛の中にも不動の信念がめつたと聞いています。

幕末から、国の内外で起つたいろいろの事件も、このような御人徳を磨き上げる試金石であり、大器晩成型の英主でありました。

当時の元老や、重臣達もまた、あらゆる苦難を経験した人格の持ち主が多かった

のですが、この人達が、天皇の御前に出ると、冬の最中でも、大汗を流したと聞きます。

これは、天皇という職制がそうさせたのではなくて、明治天皇個人の体から放射されている峻厳な靈気がそうさせたのでしょうか。

当時、アメリカ大統領ルーズベルトが日本を訪問し、天皇と会見したときの模様を次のように述べています。

「グレートエンペラー明治の大人格は、古今東西を通じて、歴史上他に比較するものはないであろう。このように、明治天皇はグレートである。日本人は幸せである。ただ、明治天皇を戴いているだけで、創造への道が開かれ、他の追従はあり得ない……」

と、心から明治天皇の御人格を質えています。

御仁徳高い明治天皇は、多言の人ではありませんでしたが、その心情を、何と十万余首の和歌に託しておられ、その一首、一首は、現代の文学史上でも大変素晴ら

しいものとされています。

日露戦争終結後

四万の海、皆同胞と思う世に

など波風の立ちさわぐらん

と、かの有名な歌をよんでおられます。

本会の肇祖臼井先生は、このような明治天皇の御仁徳を、あたかも子が親を慕う如く慕われて、数多い御製の中から、百二十五首を選んで、精神修養の道に励む第一歩とされたのです。

これが、今日まで本会の良い伝統として残っているのです。

よい伝統は、守り続けましょう。

## 2 教義五戒の説明

「靈気療法必携」の第一頁にもあるように、

招福の秘法 万病の靈藥

今日だけは

怒るな

心配すな

感謝して

業をはげめ

人に親切に

朝夕合掌して心に念じ

口に唱えよ

この五戒は、大宇宙の中の全人類の最高の教えであります。

今日だけは

人間は、過去のことをよく云々します。

「ああすればよかった」「こうしておけばよかった」、「あのときは成功した」「あの場合は成功しなかった」

など、愚痴っぽく思い出を語ることがよくあります。

昔、平清盛は、

「西に沈む太陽を、今一度東に引きもどせ」

と、わがままを申したそうです。

未来に向って前進しつづける人間はじめ、万物には、昨日という過去の我れはありません。

いくらじたばたしても、くやしがつても、懐かしんでも、過去は再び戻って来ません。

平家物語の初めに、

「諸行無常のひびきあり……」

と書かれています。宇宙・大自然は、刻々と変化をしているのです。従って、明

日という日に夢を託したとしても、私達凡人は明日には絶対に足を踏み入れることはできません。また、過去を再現することもできません。

私達の生きているのは今日だけです。明日も、一週間も、一か月も、一年も、一生も今日の連続であり、今日の結果が明日に出てくるのですから、素直に、謙虚に反省しながら、生成発展する以外にはありません。

一瞬を、今を、一日を大切に生きようと言う教えです。

## 怒るな

もともと「怒り」は、一般動物の本能、すなわち先天的なもので、悪いことではない、と思っていました。

しかし、人間は善悪を見分ける後天的経験と、努力により、「怒り」は、第三者に不快感を与えるばかりでなく、自分をも害するから悪いことであることを知りました。

このことは、米国の心理学者、エルマーゲイツ博士の実験により、実証されたのです。

すなわち、液体空気（—147°C）の中にパイプを通し、「何の想念もない呼吸」を吹き込むと、その呼吸は冷却され、凝結して無色透明の結晶が出て来ました（冬の朝、屋内から、屋外に出て、深呼吸をすると、白い息が見られる現象と同じことです）。

この原理を応用して、さまざまの感情を持った呼吸を装置の中に吹き込むと、次の表となりました。

諸種の感情	排出された結晶の色	利用結果（動物実験）
一、怒りの心	赤色	溶液を元気なモルモットに注射したところ六十四匹死
二、呪い、うらみの心	栗色	猛獣の五頭に注射……五分間で死
三、後悔の念	ピンク色	モルモットに注射……「チックク症」を呈す

四、希望のない心	灰色	モルモットに注射……神経障害
五、元気な心	緑色	瀕死のモルモットに注射したところ、 六十四匹全部蘇生
六、すがすがしい心	青色	
七、崇敬の心	すみれ色	

この実験データの示しているように、結局、短気は損気であって、他人より与えられた損害に対して怒りを表わしたならば、

(その損害) + 怒りによる損害)

となり、毒素が二倍となりますから、とくに、怒りの想念は、恐れ、つつしまなければなりません。

ただし、親が子を、教師が生徒に対して、愛情のムチを与えることは「叱咤激励」でなければならぬはず。これが「怒り」の感情であれば、絶対と言ってよい程、慈愛の叱咤にはなりません。逆の結果を生じて、断絶の壁を作ってしまう。



私達は、万物の霊長であり、しかも霊能者ですから、「怒り」の想念は持つてはなりません。

「怒り」の感情は、霊の力で立派に整理ができるのです。整理ができれば、実には和かな毎日を送ることができます。

健全な健康長寿を望む人は、「怒り」は極力つつしんで、避けなければならないのです。

### 心配すな

人間は、感情の動物と言われていて、瞬間的に、諸々の感情が湧いて来ます。

とくに、心配事がありますと、心が萎縮し、活動力が鈍り、体内の各細胞の活力が低下減衰して、よく事業に失敗して、血の小便を出したり、病気に侵される機会ができます。

また、極端に病気を恐れたり、必要以上に心配をする間は、健康は望めません。

この「心配すな」とは、取越し苦労、すなわち、過去・現在・未来を結びつけて、いろいろ煩悶することを言います。

事業に対する計画、人生計画、その他有益な事を考えることを、本会では、「考慮」と言っています。

そして、特に病気についての取越し苦労は、最も有害であるとしております。

元来、人間は大自然の恵みにより、この世に生かされているのですが、生・死は、自分の意志ではどうにも自由になりません。

何時までも健康で長生きをする懸命な努力は大切ですが、生身ですから、たとえ病気に罹っても、

「是非助かりたい、早く癒りたい」

「是非助けたい、早く癒したい」

と思っても、自己の意志では、どうすることもできないことがあります。

その人の天命は、人智ではどうすることもできません。結局「人事を尽して天命

を待つ」ほか道はありません。

これを考えますと、心配も、恐怖も、無駄のように思います。自己制御の他はないのです。

病気を恐れたり、心配している間は決して治りません。恐れは、呼ぶ力があり、心配は引く力があります。呼べば、来るのが当然でして、心配をしないよう努力することが賢明と言えましょう。一

「杞憂」と言う言葉を御存知と思います。この語源は、昔、中国の杞と言う国の人で、大変取越苦労をする人がいました。

この人は、或るとき

「天が落ちて来る」

と思い込み、寝食を忘れて心配をしたといえます。仲間が、

「天は気体であるから絶対に落ちない」と教え、やっと納得しました。

今度は、

「地が崩れてしまふ」

と言いだし、また心配をしました。

「地は、無限だから崩れることはない」

と諭し、やっと納得をしたと言うことです。ずい分、心配症の人がいたものです。この例から、心配したけれど、何ごとも無かったことを「杞憂であった」と言うのだそうです。世の中には、これに類した余計な心配をする人達は、大変多いのです。

次に、ドイツの、ベッテン・コーヘル博士は微生物についての大学者でした。

博士は、助手のエンミツヒ君と、共にいろいろと研究実験の結果、病気の原因は、内的条件、いわば、病気の大部分が、自己の心理状態によることを主張していました。

ちようどその頃、同国の細菌学者、コツホ博士が、コレラ菌を発見し、医学界のセンセーションを巻き起こしておりました。

これを、ベッテンコーヘル博士は、反対説をもって反論、自論を証明するため、「コレラ菌」の培養液を飲んだのです。

周囲の人々は、

「いくら自説を曲げないとは言え、コレラ菌を飲むとは無謀なことだ」と、呆れ驚いたものでした。

しかし、博士はその後何ら変化なく、コレラには罹病しませんでした。

一方、助手のエンメツヒ君も、同時にコレラ菌を飲んだのですか、博士と違って、おそるおそる飲んだものですから、とうとうコレラに罹ってしまいました。

これは、博士と助手の信念の差から、結果が違って出てきたものです。

心配は、大体、心の平静を打ち破り、冷静な判断を誤り、聡明さを欠きますから、良い事だ、と頭では理解できるようなことも、実行の勇気を欠きます。

従って、人間は「心配」を、自己の修養によって絶対に避ける努力が必要なのです。

## 感謝

何事にも、感謝の心を持つことのできる人は幸福です。

しかし、感謝の心を持たない人は、豊かな、和やかな、生活のできない気の毒な人と思います。

「感謝」と言えば、直接自分が恩を受けたときとか、人から物を貰ったときの礼儀くらいに考えている人が多いことに気が付きます。

もちろん、これも当然、感謝の気持ちを現わすことですが、かりに、感謝の反対を考えて見ましよう。恩を受けなかったり、物を貰わなかったら、感謝をしないで良いものでしょうか。

本会での「感謝する」ことは、直接自分に対して、物品その他のやり取りのみの感謝ではなくて、大自然の恩、万物に対する感謝の念を申しているのです。

先にも述べましたが、人間は、万物の霊長ですから、修養の仕方によっては、神

や、仏と同じ働きのできる人と成り得ます。このことに対して、

「もったいない、ありがたいことだ」

と言う感謝の念が起きるはずです。

また、今日まで、比較的何不自由なく、健康に恵まれながら、生かされていることは、心から有難い、と思わずにはいれないこととして、山川草木禽獣鳥類すべてに至るまで、感謝をしないでは居れません。

古歌に

今日もまた箒ほうきとる手のうれしさよ

はかなくなりし人にくらべて

と詠まれております。

私達は、大宇宙の中に生かされております。従って、共に助け合い、修養し合っ  
ていかなければ、この社会での生活は成り立ちません。

どんな金持、地位の高いと思っっている人でも、他人の協力があってこそなのです。

この相互協力にも、また感謝をすべきです。古来神ながらの道では

太陽の日の光の恩

月の水の恩

大地の恵みの恩

を教えてください。

仏教では、

国の恩

父母（先祖）の恩

師友の恩

社会の恩

の四恩を教えてください。

物質文明の世で、科学が進歩すればするほど

「俺が（私が）やったのだ」



式の増上慢が多くなり勝ちで、結局、世の中がますます殺伐になって来るのです。

生かされているすべてのものは、大自然の力に感謝し、周囲に感謝しながら、一歩報謝の行にまで自己が高められ、深められたとき、はじめて、国家・社会・世界の平和・家庭の幸福と繁栄が得られ、同時に自己の限らない発展が得られるのです。人間は、大自然から救われ放しなのです。感謝の念を常に持つように心掛けましょう。

### 業を励げめ

人間は、どんな人であっても、分に応じて職務が与えられております。人間のみならず大自然の中の万物は、すべて神仏の命に従って、自己に応じた業を営んでおります。

従って、自分の職業に忠実であれば、分相応の社会生活、ひいては家庭生活に恵まれるのです。

これは、神仏の恩恵であり、真理なのです。

怠け心は、自分に対しては、不幸であり、社会に対しては、罪悪である、と言っても過言ではありません。真理でない生活には、苦難が伴いません。

最近、怠惰と、息抜きを履き違えている人がありますが、怠惰は心を放縦にし、息抜きは、次の活力（エネルギー）を充電しません。

人間にとって、どんなに年齢となっても、年令相応の働きをすることが、心身の安定を得て、自然長寿に恵まれます。

昔から、溜った水にはポーフラが湧き、手入れをしない田畑には草が生える、などと申します。

常に頭を使い、身体を使って、新陳代謝を良くすることは、どんな職務にも、一杯の働きを忠実にこなうことなのです。

トーマス・カーライルは、

「諸君は、偉大な功業、偉大な名声等をこよなく望むであろう。しかし、ただ、手

をこまねいては、諸君の求めるものは決して近付かない。ただ、ささいな隠れたことに対しては、誠心誠意を傾けて行なうものには、招かなくても最後の勝利をもたらすことを忘れてはならない……」

と申しております。

日々の私達の職務に対する使命感と、行動力が「業を励め」と言うことなのです。

## 人に親切に

最近、「小さな親切心運動」というスローガンの下に、各所でいろいろな実践をしておられる方々があります。

「人に親切に」という本会の教えは、私達は、社会・自然の大神に浴しながら、社会人として生活を営んでおります。従って、立派な社会人となるためには、まず、自己確立が大切となってきます。

如何なる人でも、孤独では、その人本来の総力を発揮することはもちろん、生活

さえも成り立たないのです。

自己確立とは、複数によって、はじめて成り立つものですから、各方面からの相互け合いがあつて、始めて社会が生まれ、社会の福祉が構成されます。

従つて、極端な利己主義な人は、社会共同生活の破壊者、と言わなければなりません。

他人の存在があつて、始めて自分の存在が認められるのですから、自分に親切であるように、他人にも親切でなければなりません。

ここで、誤解してはならないことは、親切とは、魂の問題であります。

とかく、世間には、

「自分は貧乏だから、人に親切など、とても出来ない。」

など、言われる人が多いのですが、これは大変な考え違いと申さなければなりません。

金品を与えることは、善いことをする一部ではありますが、金品（物質）のみで

は、

「こんなにしてやったのに、あのとき随分、助けてあげたのに……」  
など、ややもすると、偽善になるような考え方になることが多いのです。

一ト言の助言や、忠告が、百万の財より有効な親切となることも、忘れてはなりません。

社会共同生活とは、相互親切の交換場であることを考え、他人に親切を尽すことは、人間としての義務であることを肝に銘じましょう。

## 靈氣が強くなる方法——本会修養行事について

靈氣を強大にするのに次の方法があります。

### 1、精神の修養を積むこと

本会々員は、人格を高めれば高める程、靈氣は強くなることを肝に銘じて下さい。およそ、大宇宙に充滿している偉大な靈力によって、森羅万象は生成発展を遂げております。

人間は、小宇宙といわれ、この大宇宙の大精神を受けて居りますから、誰もが、その身体の中にこの大靈氣の一部分を保有しているのです。従って、自己の精神を修養して宇宙の大靈氣を沢山受けるように、常に心掛けることが肝要です。

### 2、靈授を受けること

靈授は型であって、次のように致します。

◎雑念を払うこと

明治天皇の御製を奉唱して、一刻前までの雑念一切を払い去って靈授の準備をします。

イ、聖座

足の親指を重ねて座り、膝を男子は四十五度位に開き、婦人は、やや開き加減にして、その上に、上体を真直ぐに保ち、首を正しくして、軽く眼を閉じ、心を丹田に置きます。

このとき、全身の力を抜いて、自然に保つことが大切でして、固くなることはいけません。下あごも軽く保って、はげしく喰みあわせないこと。両肩も自然に力を抜いた姿勢をとります（肛門をぐっと締めつけること）。

お行儀に座れない人は、姿勢だけを正しく保って、アグラ・ヒザをくずし、または椅子に腰かけてもよろしい。

## 口、乾浴

齋戒沐浴の心を、形に表わしたもので、心を浄め、体・手を浄めて、精神統一に入る前段の行事です。

まず、右掌を左肩に当て、襟に沿って右下に撫で下ろします。

つぎに、左掌で右肩から左脇に撫で下ろし、さらに一回、右掌で繰り返します。

次に、右掌で左掌をしごくように撫で、左掌で右掌、右掌で左掌をしごきます。

## ハ、浄心呼吸

乾浴が終わりますと、次に浄心呼吸を行ないます。両手は、それぞれ軽く輪を作つて握り、これを両膝の上に置き、心を丹田に鎮めて、静かに呼吸をします。

これが上達しますと、呼吸が静かになって、息をしているのが、自分にも分らない位で、丸で毛穴からでも吸っているように思われます。また、心地がよくなり、身体が軽くなって、宙に浮くような気持ちにもなります。二、三回呼吸したら次に



合掌をします。

## 二、合掌

両手を、胸の前で合せます。これも、力を入れないで軽く合掌をします。

## ホ、精神の統一

聖座合掌の姿で、心を丹田に置いて精神の統一を図ります。精神の統一は、雑念を去って無我の境地に入ればよいのですが、それには、早くて二週間位はかかるようです。

雑念を去ろうとすればする程、雑念がつきまとい参ります。「ドウデモナレ」という心になれば、案外早く統一することが出来るようです。

最初は、心の中で一から十まで数えて見たり、御製を奉唱したりして、雑念を防ぐことも効果的でしょう。

一つの考えが浮ぶと、それぞれに関連した考えが、次から次へと走馬燈のように出て参りますが、これは統一されていない証拠です。

耳がある以上、世の中の雑音はすべて耳に入るでしょう。これに心を捕われてはなりません。放心の状態とでも言いましょうか、これが精神統一の一つの姿ではないでしょうか。

雑念が去れば、頭の血は下って、心身爽快になり、身が軽くなります。

軽く眼を閉じます。最初は真暗ですが、進歩しますと、明るくなります。また、時間の経つのが早く感じられるようになります。

この聖座合掌を、一日一回〜二回（一番よいのは、就寝前と、起床後十五分〜三十分位）行なえば、靈気は一回一回強くなっていくのがよく判ります。これを行なえば、靈気が強くなるだけでなく、身体の悪い所は治り、体の疲労は恢復します。聖座合掌は、なるべく薄暗い所で、暗い方に面して座った方がよいようです。

へ、この状態の所へ、各師範が靈授を致します。

ト、五戒三唱

靈授が終了しますと、五戒を三唱します。

一回目―師範が指導

二回目―全員で斉唱

三回目―この五戒を立派に守りますと言う信念を持つて斉唱し、終わったならば、

自・他の健康と幸福、および世界人類の平和を、日頃信ずる神・仏・

キリスト等へ祈念を致します。

### 臼井先生の厳命と教訓

先生は、数々の教訓を遺しておられますが、特に厳しく教えられたことは、

「大宇宙の自然法則と、小宇宙である自分との精神が常に統一され、一体とならな

ければならない」

と云うことです。すなわち、神人一体の理であります（宇宙即我・我即宇宙）。  
また、

「この真理を自分のものとして確信を持つならば、自然、言動も、修練の如何によつては、自分と宇宙は一体となり、自然に絶対、無限の作用を現わすことができる。これが即ち、人間本来の姿である」

と教えておられます。

古歌に、

雲はれてのちの光と思ふなよ

もとより空にありあけの月

と云う歌があります。

天地自然の真理による修養は、人間を大きくする、とも教えておられます。

トーマス・カーライルは、

「人間の本来の力を知らないで、生きている人間は憫れである。本当の力を知る者だけが強く、正しく、美しく栄える……」

と言っています。

これを、靈氣に当てはめてみますと、折角大自然が  
「必要な時に使用しなさい」

と、自然治癒の尊い力のあることを教えてくれているのですが、その用い方を知らないで生きている人ほど、残念なことではない、と言うことになります。

法華経の中にある「長者窮子」の例えのように、せっかく大自然や、先祖・両親などから莫大な（無限な）財産の入った「宝物」を譲り受けながら、開け方も、使い方も知らないで、ただ眺めているだけだ、と言うことになります。

私達会員は、臼井先生によって、無限の靈能の豊庫を開いて貰ったのですから、生きている間に、自分の健康（心身の）と、世のため、人のために大に役立てる決心をしましょう。

## 臼井先生の教訓

先生は、欧米の事情にも精通しておられました。とくに医学のことは、専門医も驚く程熟知しておられたのです。

「最近、医科学は、いらじるしく進歩しているから、決して医療、薬などを無視したり、また排斥などすることは、不謹慎極りない。」

と固く固く戒められております。

しかし、

「医薬で、どうしても治らない病は、進んで靈気で治しなさい。」

と教訓をしておられます。そして、

「靈気で治らない病気はないから、常に淨い魂を持って治療に専念するよう励みなさい」

との信念を語っておられます。

ただし、

「ここに一つだけ、靈気でも、医薬でも、神仏の祈禱でも治らない病気がある。それは寿命の尽きたときである。すなわち、人の生命には、大人、子供の別なく限界がある。これは、自然の摂理であり、人間の寿命であるから、何とも致し方はない。しかし、その人の寿命と判ったときは、なおさら、最後の最後まで、万全を尽して親切に真剣に治療をなさい。

そうすれば、どんな苦病の人でも、実に安らかな往生のできることは確実であるから、努めて実行せよ。」

と教訓をしておられます。

## 事例 I

神戸の鈴木商店主鈴木氏の母堂は、胃癌の宣告を受け、県立病院で、開腹手術の結果、最早手おくれで、手術のすべなく、自宅で療養の勧告を受けました。

鈴木氏は孝心厚く、何とか安らかに往生してもらいたいと、三根師範のところへ

相談に來られました。治療は約二週間にて終りましたが、大往生をとげられ、大變感謝をされたのです。

## 事 例 Ⅱ

茅ヶ崎に住んでいた居木胖さん(当時四十二才)は、昭和四十五年、胃力イヨウの手術を受け、開腹の結果、胃癌と判明し、急拠、癌手術に切り替えて、約五時間の手術後、一進一退を続けていましたが、靈氣療法の結果、四十六年には、勤務出来るまで回復を致しました。

しかし、四十七年一月、再度入院、色々の新薬投入等、懸命の闘病生活が続きましたが、四十七年六月、遂に一度も苦しむことなく、大往生を遂げられました。遺族の方から、靈氣のお蔭げと感謝されております。

## 事 例 Ⅲ

昭和四十九年五月末、本部中川師範は、満八十六才の大往生をとげられたことを遺族の方(やはり会員)からの報告がありました。



五月下旬、有志の方々と、熱海へ小旅行をされ、何時もとは少し違う様子であったので帰京の車中、長野師範の他数名で交替で治療をされ、品川に着いたときは、大変元気で自宅に帰られ、銭湯に行つて身を浄められた後、深い昏睡状態に入られ、大往生を遂げられたとのことでした。

その他、限らない事例は書きつくせませんが、臼井先生の確固たる信念が、各所の会員によつて実証されているのです。

なお、今後会員の方で、いろいろの経験談や、体験・治癒等をお持ちの方は、お知らせ下されば、これ等の体験特集を企画して、会員の参考に供したいと考えております。

どしどしお寄せ下されば幸甚に存じます。

## 霊学講座の数々

### 霊気 の 存在

宇宙間の森羅万象(天地の万物)は、ことごとく霊気を保有していると言われています。

しかし、霊気自体、どんなもので、どんな形をしているか、などと言うことは、現代科学の発達した世界各国においても、また確かな説明はついておりません。

人間社会の一部では、幽霊や、人魂・空飛ぶ円盤などを見たと言う人もざいますが、川柳にもある通り

幽霊の正体見たり枯れ尾花

と、ほとんどの人が目で見ることも、手に触れることもできないのか一般常識でしよう。

しかし、万物は霊気を保有することによって生存している、無形の実在と言うこ

とでしよう。

現代科学では、分子学・原子学・電子学等極微の世界の解明が年と共に行なわれ、実際に応用される段階に至っております。学者の間では、次の靈氣に真劍に取り組んで、その解明をしようとしている人もまた沢山おります。

靈氣の名称や、その働きについて、世界の国々で、独自の論を持っているのですが、一般に、人体放射能と言っています。

印度「バラモン・ヨーガ」……………プラーナ

オーストリア「メスマル」……………生物磁気

米国「グームス」……………動物電気

日本最初の靈氣療術師「田中大靈堂」……………靈子

わが臼井靈氣療法……………靈氣

大正五・六年頃（一九一六年頃）の靈氣に関する発見、発表では、

「トリウムや、アクチニウム等の放射性元素より放射される『アルファ線』

や、真空管内における陽極線とほぼ同様のものである」と発表されました。

現代科学は、まことに驚くべき進歩を遂げつつありますから、科学的に「靈氣」の存在が解明される日も間近いことでしょう。

### 靈氣の働きについて

人間、および万物は、次の三つの靈氣の力によって生存させられております。

- 1、我々の生命の原動力である。(イノチを生かす自然の力)……靈
- 2、我々の精神作用である。(魂を働かす自然の力)……心
- 3、自然に治癒する能力。(肉体を生かす自然の力)……肉

この靈氣は、万物が生れたときから、大自然の真理(仏教では妙智力。キリスト教では、天地創造の神・科学では宇宙エネルギーと言っている)によって、与えられた力ですから、放射性のもです。従って、科学では、人体放射能と言うわけです。前項で

「靈気は、一般には目で見ることにはできにくい」

と述べましたが、本会で、「発霊法」の指導を受けますと、必ず、見事に各人から靈気が出るのが見えます。

確かに人体放射能です。この人体放射能、すなわち万物共有の靈気こそが、人や、生物を生かしているのです。

ちようど、ハーモニー（調和）の取れた生かし、生かされ方をしているのです。

現代物理学の発達によって、人工放射能の功罪がいろいろ問題にされており、医療で適当に使用すれば、良薬となり、不適當に使用すれば人体や、生物に害を与えます。

医療……レントゲン・コバルト・赤外線・アイソトープ等

武器……原子爆弾・水素爆弾等

わが国では、広島・長崎で、世界最初の被爆の洗礼を受けたのです。

人智が進み、科学が一大進歩を遂げた今日、なお、大自然の恩恵に浴することが

できるのは、大自然の偉大さに感謝しなければなりません、度が過ぎるとその大自然の恩恵をも否定し、破壊しかねません。

人間は、万物の霊長、と言われております。従って、何ものにも増した多量の霊気を温存しています。とくに、日本人は、この霊力の力においては、世界でも優秀な民族といわれております。その修業の如何によつては、神仏と同様な働きもできるわけです。言い換れば、神仏同様の働きのできる者は、人間以外にはない、と言つても過言ではありません。

仏画・仏像・キリスト像等には、必ず霊光（オーラ）が輝いております。

これは、偉大な先達が、修養次第で霊気が放射されることを、形をもつて教えて呉れているのです。

また、高僧・キリストなどは、病人の体に手を触れることによつて、病気を治癒させた例は、数多く言い伝えられております。

これは、人格の勝れた人々から、人間放射能が放出されているから、強ければ強

い程、奇蹟的な治癒効果が表われるのです。

私達は、生存上の競争から来る、煩惱・欲望・焦慮・憤怒・悲哀等の心の迷いが多いためか、とかく、右往左往しがちで、本来宿された、神仏同様の働きのできる大精神を見失いがちで、惜しくも隠されてしまい、靈光（オーラ）の輝きを見せないことが多いのです。何と勿体ないことですね。

本会会員は、五戒を守ることによって修養の高度性をはかり、先天的に持つて生まれた靈気を有効に、しかも、立派に発露し、自他の心身改善が行なえるのですから、この上、修練を重ねて、一層有能な、靈能者となって、神仏と同じ働きのできるように自己を高めて参りましょう。

### 体は魂のままに動く——純心無垢になれ

本会は、心身改善が本来の目的であります。

従って、会員は自ら心身の改善の効果を挙げることです。大体において入会の動

機は病氣治療が主になっているようです。勿論大切なことです。ここでは、木会の目的、根本問題の心身改善に主体を置いて見たいと思います。

どうして、靈氣療法で自他の心身の病氣を治すことが出来るのでしょうか。

ただ、患部に靈氣を与えれば治るのです。科学的には、まだまだ解明の段階に至ってはおりません。しかし、何かの影響で、体内細胞組織の一部が破壊されて、靈氣の希薄になった処が、病に侵されていると見て差支えありません(外傷も同様です)。だから、患部に靈能者の手を通じて、靈氣を補靈(バッテリーに充電すると考えて下さい)すれば、その侵された細胞機能が復活するのです。

靈氣はどうすれば発露されるかと言うと、現実の小さな知恵を捨て、大自然の懷に、生まれた時の姿で溶け込むことです。大自然は必ず、その温い懷に、皆さんを抱き入れて、強い靈氣を与えてくれるのです。小知識を捨てて、理屈を離れ、馬鹿みたいになって、大自然に飛び込むことが大切なのです。

信仰を持っている人や、精神統一をやっている人は、この靈氣が強いことは争え



ない事実なのです。

半信半疑は、百害はあっても、一益もありません。たしかに、習い始めは、半信半疑でしょうが、回を重ねるに従って、恐らく信念は強くなることは思いますが、早く自ら病人に手を当てる、体験によって信頼を高めて下さい。

それまでは、馬鹿になったつもりで、理屈をぬきにして修養を重ねることなのです。

世界的大哲学者・エマニエル・カントは、永劫不滅とも言うべき、唯心哲学の道を解いたのです。実は、カントは、生来「クル病」(セムシ)でありました。丁度彼が十七才の時、普通の子供の五・六才位の発育で、しかも虚弱体質でした。

両親は心配の余り、医師の診断を受け、その結果「最早余命は数か月」と言う診断でした。

医師は、この若者を、可哀想に思い、本人には「養生次第では、尚六・七年大丈夫だよ」と申しました。

所がカントは、即座に

「我、成らざんば死せず。」

と言つて、周囲を驚かせました。その通り七十五才の長寿を保つて、大哲学者となつたのです。これは、カントの強烈な信念、持続の結果で、大哲学者として、遂に唯心の実相を極めたものと思ひます。

心身は、一脈の流れでして、主体の魂が強ければ、身体は必ず従属して來ることの実証を、カントは世に示したと言へます。

### 立派な靈能者とは

立派な靈能者となることは、修養を積む外はありません。

修養の道は、千差万別で、いろいろと有りますが、本会では、明治天皇の御製を通して、心の浄化を計り、五戒を日々守ることによつて心身統一と、精神修養を致します。

一口に中しますが、五戒を守ることは、仲々できるものではありません。ちよつとしたことでも、怒り、心配し、不服不平を言い、仕事を怠り、人と争いを起し易い。表面の態度でも言えませんが、自分の魂の中にほうふつとして起つてくる、これらの気持を拭い去ることすらかなかなかむつかしいのです。

それでは、

「この五戒か完全に守れるようになるまでは靈氣は出ないのか」

と言われますが、守ろうとする一日一日の、努力の積み重ねを怠りさえしなければ、必ず立派な靈能者となり、強い靈氣が放射されるようになります。

人の心は、千差万別で、多少の逢いはあります。しかし、本会で靈授を受けた人で、今まで靈氣の出なかった人は一人もありません。

ところが、切角、靈氣が出ているにもかかわらず、たびたび、五戒を破つたり、魂の改善を怠つたりしますと、フツと靈氣が出なくなることはざいいます。どうぞ用心をして下さい。

朝、醒めて、床の上に静座し、合掌して五戒を唱える。また、どんなに夜、遅く  
なっても、疲れていても、ちよつと布団の上に静座し、今日一日に感謝の五戒を捧  
げることは、習慣となれば、やらなければ済まない気持ちになります。こうなつた  
らしめたものです。

今日一日の行為が大切なのです。

### 明治天皇とジョンバチエラ―博士のこと

イギリスの神学博士ジョンバチエラ―博士は、明治二十六年（一八九三）北海道  
函館に宣教を目的として渡来し、愛隣学校、幼稚園、アイヌ保護学園等を設立、ま  
た、エゾの今昔物語などを書いた奇特な人でした。

北海道において、明治四十二年（一九〇九）まで約十七年間「アイヌ」のために  
尽したと伝えられています。

たまたま、明治天皇が北海道へ行幸されたとき、博士の功績を聞かれ、その行為

に対して、勲章を授けられました。翌年の観桜会には博士を招待されました。

博士は、大変喜んで観桜会に出席し、直接天皇と握手をしたところ、強い靈氣に打たれたような感応があったと驚いたそうです。

もともと、人格の高い博士に、もっとすぐれた人格者の明治天皇が握手をされたことで、博士は、天皇から靈授をされた形となったのでしょう。

その後、博士は立派な靈能者となり、自分では、理由の分らないまま、アイヌ人やその他の人々の病苦に対し、手を当てることによって癒していたと聞いています。

### 自然治癒能力について

元来、人間の病氣は、他人の手を借りたり、薬や、医者に必要な以上頼らなくても、自分の靈氣、すなわち自癒能力で治し得るはずのものです。

山野に棲んでいる禽鳥獣等は、各自罹った病氣を、自癒力で立派に治しています。犬や、猫などによく見かけますが、傷口などは、なめて立派に治していますし、

内臓の具合が悪ければ、本能的に草を食べたり、絶食をして治しております。

ネコ入らずを食べたネズミは、野生の雪の下を食べて下毒をしています。

ところが、万物の霊長であるべき人間が、なぜ自然治癒能力を与えてもらっているのに、自分の病気を治すことができないのでしょうか。

これは、科学・医学の素晴らしい発達による結果、これらを対照し、迷いが生ずるからではないでしょうか。すなわち、概念や思凝りに邪魔されて頼りすぎる結果、折角自然から与えられた靈気の働きを妨げているからに他なりません。

太古の私達人類の先祖は、大自然の真理の中に生かされたものですから、あまり雑念がなく、自然の中の生活から、治癒力を身につけていたと思われます。

これは、長い人類の歩みの中で、習慣と、修練の潜在意識が働いて、もし自分の身体の何処かが痛むと、「痛い」と言って、患部を抑える仕草をします。われわれ先祖の仕草が現代に出ているのです。

先祖は、じっと押えることによって自癒力を駆使したと思われませんが、現代人は、

大さわぎをして「やれ薬だ」「やれ医者だ」と、うろたえることが多いのです。

臼井先生は、断食修業中、この真理を大悟されて、万人のためにこの方法を公開されたのです。

移り行くどんな世代でも、真理は絶対にして不変であることを教えられているのです。

今や、私達は、物質文明が日進月歩する現代に生され、しかも、靈氣療法を修練する縁を持ったことを、この上ない幸せと思ひ、ますます精神修養を積みながら、身心両面に生き、万物の靈長として恥かしくない立派な靈能者となつて、自他の自然治癒能力を身につけようではありませんか。

### 治療に当たつての心得

治療に当たつては、厳かに、しかも清く私心のない心で、親切に治療をすることが肝要です。医者の見放した病人を治癒して、その人の喜びを見れば、愉快なもの

です。暇さえあれば、どんどん手を差し延べて下さい。治療して上達することが大切です。

### 治療の心得

イ、患者には、楽な姿勢をとらせること。寝てもよい。坐ってもよい。一番楽な姿勢にして、治療に取りかかること。

ロ、治療に使う手は、どちらか片方に定めて置いて、それだけを使うこと。片方は軽く握って、大自然からの靈気を充電すること。ただし、耳とか、腎臓とか器官の二つあるものの治療の場合は、両方を使ってもよろしい。

ハ、掌を伸ばして、患部に軽く当てること。押えつけるのではなくて、触れる程度に手を当てること。

ニ、中高指の第二関節を、患部に当てるようにして、手や腕が逆にならないよう、また楽に治療ができるようにすること。

ホ、一か所十五分〜三十分位とし、数か所でも、大体一時間を限度として実施す



ること。長く治療をする方がよいが、病人が嫌気がしたり、苦しんだりしては効果が薄くなるから。ただし、病人が希望するなら、いくら永く治療をしても差支えない。

連続一時間よりは、二、三十分に分けて、休みながら治療をした方が結果的には良いようである。

へ、治療するときは、心特をよくして置くことが肝心であるから、もし治療中、眠くなつた場合などは休憩し、一服してから再開すること。治療中は、談話をしたり、茶・煙草等飲んでも差支えはないが、混み入つた話や、頭を使うことは極力避けること。

ト、手を触れることは、ハダに直接手を当てることの方がよいが、これを嫌う人や、熱病等で触れられない患者には、直接触れる必要はない。靈気は、何物でもかまわず通すのであるから、着物の上からでも、夜着、布団の上からでも一向かまわない。

チ、眼病の時には、一枚のハンカチかガーゼを掩うてやる方がよい。

リ、男子治療者で、患者が婦人の場合、肉体に直接手を当てるときは、実懇の間柄の場合は相互理解も取り得るが、初対面の人には、充分注意をすることが肝要。

又、どんな患者にも、下毒治療は必要。必ず実施すること。下毒療法するとき、病気の種類によつて反応のあることを、注意しておく必要がある。ただし、神経質の病人には、直接本人に、実施することを告げないで、家人に告げておいて、万一の場合、家人から安心感を与えてもらうことが良い（優性の病には反応の出ることが多い）。

ル、治療をする人は、常に携帯用アルコール消毒器を携帯すること。

オ、霊能者には、流行病（伝染病）は感染しないことになっている。それは、流行病をも治癒するだけの霊力を持っているからである（しかし、この場合、治療者の恐怖心は大禁物である）。

## 靈氣療法の特徴

### イ、病 腺

病気のある部位に、手を当てると、病源から出ている何かを感得するのです。

これを病腺と名付けております。

病腺の感じは、病気の種類・程度・病気の上り坂・下り坂等の状況は人によつて違いますから、一定はしておりません。全く体験によらなければならぬのです。

病腺の感じは、一般に若い人が敏感ですが、鈍い、分らない、といつて悲観することはありません。数多く手を当てていきますと、段々と鋭敏になつて参ります。靈氣が通うように、脈打つように、針や松葉の先きで刺すように、あるいは虫が這うように、ムズムズしたり、咬み付くように感じたり、痛かったり、痺<sup>しびれ</sup>たりして、それは種々雑多です。

病気があるところには、必ず病腺が出ます。病腺は、肉体的には病気と感じない程度の病気にも出ますから、医師の診断よりは、二、三日前に病腺は感じます。注意してさえいれば、病気は発病前に手当てをして、手おくれは無くなるはずで  
す。

また、医師が「癒った」と診断した後でも、病腺が出ていることがあります。これを充分取り除いて置けば、再発と言うことが無くなるはずで  
す。

病腺は、患部に出る外、いろいろのところへ出ております。

例えば、鷲口創は足の裏に、胃病は額に、廻虫は鼻の下に、肝臓は眼に、とい  
う具合。

口、毒下し

丹田に手当てをして（丹田はヘソの下三横指の所）、「毒の下るように」と念達  
して、約三十分間続けます。こうすると、どんな毒でも下ります。

肉食中毒、薬の中毒・皮膚病・注射後・鍼の後など。

中でも、氷い病人生活をしている人には、薬中毒は必ずこれで取って上げて下さい。

利いたときは、小便の色が白く濁って、米のトギ汁のようになったり、大便が真黒く、悪臭がひどいのが排出されて、身体が快い中にも、ケダルサを感じるの  
で判ります。

一回で利かなければ、二・三回利くまで実施して下さい。眼病でも血走ったものや、皮膚病には是非治療して下さい。

#### ハ、交血法

血を交換する方法で、腺病質の人や、病後の人、お年寄りの人に実施すると、知らず知らずの間に丈夫になります。

半月、一か月、半年と続けてやって上げて下さい。

交血法には二つの方法があります。

半身交血法……これは、上体を裸にして、背中の上部を十乃至十五回位、中央

から右と左へなで下ろし、次に、指二本を背柱の両側に当てて、上から腰骨の直下までなで下ろし、ここで、グツと強く押します（痛くない所があります）。

これをやはり、十五回位、実施者は呼吸を止めて繰り返します。入浴時、子供にやっつて上げると、利き目もあり、よろしい。

全身交血法……これは、頭（大体五分位）両腕・心臓・胃・腸と治療して参ります。両下肢はなで下ろして、腿から爪先まで数回、全部で三十分位で終るようになります。

## 二、念 達

念達とは、自分の念ずることを、相手の人に達せさせる方法です。額の毛生え際に靈気を送って、病人に伝えようとすることを念じます。思い込むのです。

たとえば、重病の患者に

「病氣は癒ります」

と念達するのです。また五戒を念達します。これは、一、二分間行なうだけで十

分です。重病患者の場合は、治療毎に念達をした方がよろしい。

大体、靈氣療法は、精神療法でして、患者の精神状態のあり方が、大いに効果を左右するものです。

よって、患者の心特を、念達によつて気強くしたり、快くしたりすることは、大変大切なことは明かなのです。

人の心が映ることは、心理学的にも証明されていることであつて、隣に立つた人が思いつめたことは、精神統一をやつておれば、当てることができます。靈氣や、精神は、時間・空間を超越していきますから、遠近はありません。目を閉じると、距離は消えて、精神界の融通自在となります。これは、潜在意識に映る第六感の働き、と言えましよう。

昔から虫の知らせがあつて、親の死を子供が知つたり、胸さわぎがしたりするのは此の例なのです。

念達は、患者の潜在意識に伝える方法でして、軽い病人には、毎回念達をしない

で、患部に手を当てた当初、一、二分間、念達をすればよいのです。

念達が、効果がありますと、治療に際して病人は安心をします。確信がなければ、病人は不安を感じ、また真心をもって治療に当らないと、病人が嫌がります。

真心をこめて治療を実施すれば、病人は、信用と、安心と、感謝の念を起こすものです。

邪念があれば、結果は良くありません。

古来の名僧や、智者の療法が利くのは、全く人格の高潔性が病人の心にも直ちに反映するからなのです。

ホ、体得を数多く重ねること。

霊気療法の特徴は、初回到霊授を受けた人でも、よく霊気が出ている方がおられます。

しかし、なんとと言っても大切なことは、体験を数多く重ねることにあります。身を持って経験したことは、真実自分のものだからです。



そして、俗に言う「ツボ（コツ）」を早く掴み早期診断を行ない得る修練が大切です。

それには、数多くの治療の体験をすることが必要となつて参ります。

ここで、治療をするに除して、自分が治してやる、と言う増上慢の考え方は、最も慎まなければなりません。霊気が治すのですから、治療を疑つてもいけませんし、自分が治してやったと思うことは、大変おろかな考えです。くれぐれも自重が大切です。

本会が、人格をより強く修養する理由がそこにあるのです。

いくら、治療経験豊富で、多くの人々に手当てをしたからとて、同門同志が、お互いの誹謗をし合うなどは厳に慎むことです。

霊気は、全身より発霊しますが、最も強く放射されるのは、口・眼・手のひら、であります。手も、中高指の第二関節の先の方ですが、人によつては、掌からよく放射している人もあります。

治療に当り、靈能者は、常に臍下丹田に魂を置くことを忘れないで下さい。

へ、病気の三大原因

1、遺伝……両親または、先祖の血液により生ずる病気（之は気の毒です）。

2、心……疑心暗鬼とも言いますが、何でもないので、自分で病気を作り出して、本当の病気に罹ってしまう人、大自然が生かしてくれた人間の尊厳さを忘れて、概念・思凝りに惑わされた結果で、病でない心の病気です。

3、四囲の環境……これは大した病気でもないのに、周囲の人が重病人扱いをすることから起る病気で、いわゆるこの類の人は、「蒲柳の質である」とか、「一向元気がないから、どこか悪いのではないか」と言った敗残的な言葉で表わし、本人は、自分で「弱いんだ」と思い込み、観念して神経をいたずらに悩まし、どうにも重病患者のような態度を取ります。

病気は、自分の心により、周囲の環境によっても作り出すことができます。

会員は、すべて靈能者ですから、確固たる信念を持ち、自分の魂をはっきり掴ん

で、より靈能を高めることが大切です。すなわち、靈・肉・心の健康に心掛けることなのです。

## ト、反応

靈氣療法によつて病気を治療致しますと、一時病勢が悪化したかのような状態になることがあります。これは反応といって、決して心配することではなく、むしろ治療効果のあつた一証拠なのです。およそ、慢性の病気は、一旦、急性病状を呈して、段々とよくなるものですから、神経痛や、リニューマチスが、治療のため、二、三日痛みがひどくなつたり、中耳炎は、膿の量が増えたり、麻疹では、真紅になる程、フキデモノが出たりするものです。これらが、悪化と違うのは、気持がよいので見分けられます。これは、治療の結果、病因の全部が一時に引出されたと見られますよう。この反応のある病気は、治癒が早いものですから安心してよいと考えます。

## 医師に対する注意

医師は、新陳代謝を盛んにする薬を使用して治病の助けをし、外科の場合は、手術後、消毒薬等を用いて、新陳代謝を待っています。

これは、靈氣療法が、自然治癒能力を用いて治病をするのと、その主旨については合致しております。

そこで、医師の手当てと、靈氣療法は併用して差支えないと考えられます。

現代医学は急速なる進歩を遂げつつあり、病気をして、医師を嫌うのはどうも間違っているのではないかと思います。

医師は、学問的・経験的に尊重すべきもので、国法にも、医師の死亡診断書を必要としていますから、決して医師を排斥すべきではありません。白井先生の厳命にもある通りです。むしろ、医師の適切なる診断・手当の後、謙虚に靈氣療法を実施して下さい。

病気の軽いとき、靈気で治したり、医師の見放した時は治療することは一向差支えないことで、軽いと思つたものが、昂進したら直ちに医師に診断を依頼すべきこととです。

信用ある、人格の高い医師を選んで下さい。早期にかかるようにして下さい。手おくれは禁物なのです。

### 靈氣療法は人間に限らず万物に効果あり

靈氣療法は、馬・大・猫・金魚・小鳥・樹木・種子等にまでもその効果があります。

- 1、死にかかった金魚を、水槽の外から、あるいは、水槽の中に手を入れ、金魚を軽く握つて靈氣を与えますと、元気に泳ぎ出します。
- 2、今、まさに息の絶えようとしている「ヒヨコ」を掌の中に入れて、静かに靈氣を与えますと、翌日から元気でピヨピヨと歩き廻ります。

3、小鳥は籠の上からか、または軽く握つて治療をしますと、元気にさえずりはじめます（手のり文鳥にて実験）。

4、蚕の卵に靈氣を与えますと、丈夫な蚕が生れ、目方の重い立派な繭を作ります（名栗溪谷在で津村師範実験）。

5、生花は、必ず水上げをしますが、その跡に靈氣を与えますと、持ちの日数がうんと増えます。

6、生花で、ハスの花は水上げの悪いものですが、靈氣を与えたものと、与えなかったものとは、長持ちの度合いが違います。

7、さし木の際靈氣を切り口に与えておきますと枯れません（サカキにて実験）。

8、モミに靈氣を与えますと、米質がうんと良く収穫されます（群馬・大間々にて実験）。

その他、数えきれない位、多くの事例を会員の方々から拝聴して、人間ばかりでなく、万物にも靈氣の効果の偉大さが実証されているのです。

## 靈氣療法指針の説明

皆さんが持つておられる「靈氣療法必携」に、療法指針が刻明に書かれておりますから、これに従って治療を実行していけば良いわけです。

初心の方々に、「病腺」がまだよく理解できなくても、手を患部に軽く当てさえすれば、相当効きます。どうぞ、思い切って勇敢に手当てを実施して下さい。

実施に当たっては、必ず前頭部毛生際に手を当てて「念達」することを忘れないで下さい。

「療法指針」に従って、「ツポ」の概要を示しながら、少々詳しく列挙していきます。

### 首から上の部

「頭」

体の何処が悪くても、まず頭を治療すること。

順序、1、毛生際（前頭部）

2、両方のコメカミを両手で治療（側頭部）

3、後頭部

4、首すじ、ボンノクボ（交叉神経あり）

5、頭の頂き（頂頭部または天帝）

この五つの部位を約三、四十分位治療のこと。

下熱法は天帝を治療する。

不眠症、ノイローゼは、①眼、②後頭部（男子は胃・女子は子宮にも手を当てよ。）

③心臓、④胃腸、⑥鼻の悪い場合あり、⑥性器の故障

「脳出血・脳血栓」

①右半身不随↓左側頭部 左半身不随↓右側頭部

②心臓、⑨胃腸、④腎臓（血液を清める）、⑤不随の箇所



## 「動脈硬化・高血圧」

- ①頭、②心臓、③腎臓

## 「目」

①片眼か悪いときでも、両方を同時に治療（注…ガーゼか紙を当ててバイキンの入ることを防ぐこと）

- ②眼球・眼頭・眼尻

③指で眼の周囲を軽くマッサージを加えるとよい。

④充血した眼には、下毒法を行なう。

⑤肝臓の治療を忘れないこと。

## 「耳」

①両手の中指を左右の耳の穴に入れ、他の指を耳朶の前と後に当てる。指先に、ドクドクと血管の動悸を感じるときは、病気がよくなっていることが多い。

②耳の直下のクボミ。耳の後方の高い骨のところ（中耳炎に特に必要）

③ 耳の穴から指をぬくとき、「フツ」と呼気を吹きこむとよい。

① 耳と腎臓は関係が深いから必ず腎臓を治療すること。

#### 「鼻」

① 親指と中指で小鼻を軽くつまみ、人差指を眉と眉の間に当てる。

② 首すじ

③ 脾臓(左のわき腹)

鼻つまりなら治療十五分位でなおる。

鼻茸、蓄膿症は相当の期間を要するが、一生懸命に治療をすれば、全快する。

鼻と婦人科とは深い関係がある。

#### 「歯痛」

① 痛む所を外側から治療する外に、下アゴ骨の後方淋巴腺の集まっている所を治療をする。

② ことに歯グキに脈打っている時は、耳下に病腺が出ていることが多い。

③小指と薬指のつけ根にも病腺を感じる。

「口」

①上下から二本の指で両唇を挟む。

②鷺口創のときには、足の裏の土踏まずに病腺の出ていることが多い。

「舌」

①「ガーゼ」で舌に手を当てる。

②喉の下の舌根に手を当てる。

足の裏の土踏まずを治療すると効果的。

「足」

①のどに軽く手を当てる。

②首筋

③扇桃腕は手をあごに引っかけるように治療する。治り易い病気であるが、高熱が出るので、腎臓を併せて治療をする。

- ④ 甲状腺は、声帯の所に突起があるから、そのまわりに当てる。
- ⑤ セキは、のどか、上胸部に当てる。風邪のセキはすべてのど。  
ゼンソク、百日咳、気管の咳は胸を治療。ひどいときは鳩尾みぞおちを治療のこと。  
芋類を食べることは成るべくさけるよう。

## 内臓

### 「胸」

- ① 肋膜炎は意外よく治る。
- ② 肺病も初心の人は、医師に、発病場所をよく聞いて、気長に当てるとうい。ただし、二、三期は努力を要する。背部にも手を当てることを忘れないように。
- ③ 気管は鎖骨の上に当てる。

### 「心臓」

- ④ きわめて敏感であるから用心が必要。

②左乳の下と、背柱を治療するが、最初は短時間から始めて、段々と永くやるように……。

③直接心臓に手を当てることはなるべく避けて、側面や、背面から治療をして下さい。

④反応があつて動悸がひどいときは、濡れ手拭で冷やしながらか治療をする。

⑤弱い子供は、心臓の悪い場合が多いから、よく手を当てる必要がある。

### 「乳房」

①乳房の上に掌をおおいかぶせるようにして治療する。

②乳出しのときは、乳房をかかえるように下から治療をする（ズキン・スキンとして出てくる）。

### 「胃」

①急性の胃病は鳩尾を治療

②慢性の場合は、鳩尾に右手の親指を立て、掌を腹に倒すと大体、胃の位置である

から、そこを治藤する。

- ③胃下垂の場合は、もつと下っているが、大体この方法で治療すればよい。
- ④肝臓が連絡して、胃にきていることがある。
- ⑤血液交換法を実施のこと。
- ⑥肩胛骨（カイガラ骨）の間の所を治療する。
- ⑦胃の左下の痛むのは、胃癌や、胃潰瘍の場合が多いから注意すること。
- ⑧胃潰瘍のときは、頭の治療を念入りにする。
- ⑨少し慣れると、病状を観察して、軽いと思ったら頭と胃、重そうだったら腎臓をも併せて治療する。
- ⑩やせた人の胃病は、後方背の部より治療する方がよいことがある。

#### 「脾臓」

- ①左脇腹、胃の左端にあり、増血器官である。
- ②鼻に関する病気は、ここによく手を当てると利き目は大。

## 「腸」

下痢、便秘など色々の病気があり、血は腸で造られるから、腸の治療は、常々に怠らないよう。

①便秘のとき、下腹部腸部を治療するほか、最下部仙骨の所を約三十分治療すること。赤ん坊の便秘はてきめんに利く。

②大腸力タルは、上行結腸・下行結腸・横行結腸を治療し、とくに、腸の曲り角に注意して治療をする。

③小腸のときは、臍の下の真中に手を当てて治療をすればよい。脊椎の方も忘れないうよう。

④ヘソには、いろいろの内臓の病腺が感じられるが、とくに、ヘソの周囲が堅かったら、内臓のどこかが悪い証拠であるから、そのつもりで治療をすること（心・肺・肝・腎・脾・膵など）。

## 「肝臓（含胆のう）と」膵臓」

① 肝臓は胃の右で、半分は肋骨の中に半分はその下方に出ている。疲れたと思うときには、肝臓を治療すると快復する。

② とくに目が疲れたときは、肝臓をよく治療するよう。

③ 胆石、黄疸も肝臓治療（前と後から治療のこと）。

④ 右の肩だけが凝る場合も肝臓治療。

⑤ 膝臓は、みぞおちとヘソの間を治療、糖尿病はここに手を当てると治りが早い。

⑥ 肝臓を患っている人はよくつまずく。肝臓と心臓を治療のこと（背後から治療して下さい）。

### 「腎臓」

① 肋骨と腰骨の柔らかい所、背骨の両側にある。掌を腰に当てて、両手の指を水平に揃えた所が腎臓であるから、前と後から治療する。

② 両方の手を使って差しつかえない。

③ 肝臓の疲れがひどいと腎臓へ来る。



④脚気・脳出血・ノイローゼ等は必ず治療のこと。

⑤「腎臓が弱ると人生観が暗くなり、覇気が無くなる」と言われているから、常に治療をして置くこと。

⑥中耳炎・耳鳴り等、耳に関する病は、腎臓を治療すると治りが早い。

⑦腎盂炎の慢性化したものは、腎臓に一・二回手を当てると、その後高熱が出て全快する。

### 「膀胱・尿道・睾丸」

①膀胱は、ヘソの下の高くなった恥骨の上を治療。暑いとき婦人が冒され易い。

②尿道・睾丸も着物の上から治療。

③夜尿症（寝小便）は、頭と膀胱を治療。鼻に病腺を感じることがある。

### 「婦人病」

①子宮・卵巣などに関した病気であるが、子宮の場合が多い。ヘソの下から恥骨にかけて治療のこと。治療をし始めると、下りものがふえるが、下り切ると全快する。

②胎児の位置の悪いとき、月経痛なども治療すれば治る（下腹部・仙骨・腰椎と仙骨の間）。

③子宮の前後屈も、手術していなければ治る。

④産前・産後の治療は、ときめんに利く。

⑤子宮を背後から治療するときは、しりの割れ目を治療したらよい。

### 「お産について」

①妊娠中、一週間に一、二回位治療をすると、胎児の発育がきわめて良い。生れるときは小さくて、生後三日か五日経つと、大きく生れた者よりよく発育する。

②ツワリのひどいときは、胃と子宮を治療すること。

③子宮外妊娠は、五か月以上になると、普通助からないと言われているが、靈氣療法を行なえば、悪いものがすべて出る。子宮外妊娠では、腹の中がベトベトになるのであるが、破裂的なものでも、ドンドン血が下って、医師の見放したのも、二・三日で完全に心配の域を脱し得るし、その後も早く治癒する。

④逆胎児とヘソの緒の首に巻きついたものも治る。

⑤お産の経過が迅速である。

⑥産後の産ジヨク熱はよく治る。

⑦産後の回復が早い。産後は普通十二、三日で子宮が収縮するが、靈氣療法を実施すれば三、四日で旧に復する（産後、三・四日は治療に励むこと）。

### 「痔」

①日本人には特に多い病気である。患部に脱脂綿を当てるか、着物の上から治療する。

②痔ろうも治療により案外よく治る。

③痔は、天帝のつむじの所を治療すること。

④肛門の治療は、病人をすわらせて後から手を下に差し入れて治療をするとやりやすい。

## 「脊椎矯正」

①頸椎……七こ。胸椎……二こ。腰椎……五こ計二十こが軟骨でつながり合い、その下部には、仙骨と、尾底骨がくっついている。

②この一連の竹のような柱は、人間の黒柱のような重要性を持って、脚から上を支えている。

③生命の起源で、人間で一番最初に発生する部位は、脊椎なのである。次に心臓、頭と言う順序であり、「背骨のまがり方は万病の源」と言っても過言ではない。本会々員は、常に正しい姿勢を保つことが肝要です。

④万人、背骨がはずれていたらすぐ矯正しておかなければならない。

⑤はずれているかどうかの見分け方

目で見えるか、指でさするか、脊椎の両側を指ではさんでこすってみると分る。

⑥はずれていれば、三指を静かにその上に置いて治療すれば、自然にその部分の骨が動いて、案外簡単に矯正ができる（無理に力を加えないように……）。

「病源不明のとき」

- ①頭、⑦心臓、③下毒法、④脊椎、⑤胃腸、⑥腎臓

諸疾患

「神経痛・リューマチ」

- ①頭（とくに後頭部）

②痛む箇所……治療にかかると、反応がでて、一層痛みを増すが、続けること。相  
当かかる。

イ、熱があれば頭と鳩尾を治療（下熱）

ロ、便秘していたら、胃腸・腰椎・仙骨の治療。

「シャックリ」

- ①横隔膜のけいれんであるから、両手を下げさせて胃に手を当てて治療。

- ②頭の中央部を治療

## 「ゼンソク」

①頭……鼻も治療

②胸……心臓・両乳の上方

③鳩尾および胃……胃から来たものは多い。

④腎臓……これに原因することも多い。

療法を始めると、途中で一層強くなることもあるから、患者に注意しておいた方がよい。相当長くかかるが根気よく治療を続ける。発作中はよりかからせて治療すること。治癒しても一年間は芋類を禁食させるよう。

## 「脊髄症」

①頭、②脊椎、③腎臓

これは相当時間がかかるが、気長くやれば必ず根治する。骨の病で絶望することはない。

## 「糖尿病」

①頭、②心臓、③肝臓、④脾臓、⑤腎臓、⑥胃腸、⑦全身治療

治療前に糖分を計っておいて、治療をする。行なうに従ってだんだん糖分が減少していく状況を患者に知らせると、希望が湧く。

### 「脚気」

①心臓、②胃腸……脚気になると胃が板のようになる。

③足のしびれているところ……足のはれる場合しびれることがある。

### 「バセドー氏病」

のどの甲状腺がはれて、目玉が突出する病気である。

①頭、②目、③のど（甲状腺）、④婦人なら子宮、⑧心臓、⑥半身治療

### 「切傷」

傷をした所に手を当て治療。

動脈の出血のときは、止血後治療。

血は不思議な位よく止まる。痛みも止まる。

「火傷」

直接治療すると、大変痛いものであるから四、五糎はなして治療し、痛みの止まるのを待ってガーゼ等を置いて直接治療をする。極端な火傷の痕が残らない。

「霜やけ」

患部に手を当て治療する。初期なら大抵一度で治る。

「とげ」

治療をしていると、自然に抜けてくる。のどへ、魚の小骨等がささったとき、あるいは、何か詰ったときは、あわてないで、外部から治療をすると、暫時、せきと共に飛び出して来ることがある。

「子供の夜泣き」

- ①急に激しく泣き出すとき……胃腸を治療
- ②連続的に泣くとき……頭を治療
- ③歯ギシリ……頭を治療



④ 高いビキ……………頭（とくに首筋）・鼻を治療

「百日咳」

① 頭……大人でも、子供でも咳は神経性のものであるから、とくに頭は念入りに治療。② 胃腸・③ のど・④ 胸・⑤ 鳩尾・⑥ 腎臓

「ジフテリア」

① 一才から学齢期頃までの小児がかかり易い。

② 発熱し、扁桃腺がはれ、のどの粘膜に白い膜を生じて、笛のような「せき」をす  
る。

③ まず血清注射をする。

① 頭・のど・胸・胃腸・腎臓・丹田治療

「はしか」

① はしかの初期には熱は下がらない。かえって上る。

② 下熱法で治療しても下がらなかつたら、はしかと思ってもよい。

③ 下熱法・頭・胃腸・心臓・発疹部

「脱臼」

① 骨のはずれた所へ手を当てると、自然はまる。

「骨折」

① 接骨医に接骨をしてもらった後、その上を治療。

「性癖治療」

① 汽車・汽船等乗物の酔い

② 飲酒・喫煙の悪癖

③ 食べ物の好き嫌い

④ 盗癖

などを治療する方法である。

(例) 算数が嫌い↓好きになった

朝寝坊——↓早起きになった

勉強が嫌い↓好きになった

⑤治療法↓天帝の後方の平たい所に十五〜三十分間治療して、念達をする。  
根気が必要であるが、大体矯正できる。

以上概略ではありますが、書き落した所は、「治療指針」に従ったり、各師範の方や、熟練した人に聞くなどして下さい。何はともあれ、自分で身近かな所から治療を実施することです。

家庭の中に、一人の霊気療法を知った人がありますと、家庭から、病魔の影を断ち切って、家庭内が、明るく円満になることは確実です。そこで、各自が霊力を強くして、まず家庭を美しい姿にし、他人の病魔をも撃退させることができれば、弥栄これにすぎることはありません。

一人でも多くの病める人に手を出して、霊気療法に対する信念を高めて下さい。  
自力本願こそ、**霊気上達の重要な鍵**となるのです。

なるべく、先輩の手をかりず、頼らないで自分で実施して下さい。

霊気療法は、一回の治療時間を氷くやればやる程よいのです。瀕死の重患者には、昼夜ブツ通しで治療をしなければならぬこともあります。不眠不休でやれば、どんな業病をも治癒させることができます。

霊気療法を修得したからには、自分で、工夫・研究・努力して上達するように心掛けましょう。

## おわりに

この世の人の世界に、素晴らしい靈氣療法の伝授をされました、肇祖臼井甕男先生はじめ、多くの先輩方の遺業を引きついで私達会員は、全国各地で、自他の身心改善のため、毎日の修業を積ましてもらっております。

臼井先生は、

「会の発展・拡大のための宣伝行為」  
を厳に戒められたと聞いております。

しかし、遺されたこの療法のすべては、大自然の真理に沿った、ごく自然の最高の療法であると考えられます。

この療法を学ぶ者のみ、知る喜悦でございます。

狂乱の世になればなる程、わけの判らない（原因不明）の病気は、益々ふえ、現代医療制度自身も、人間を、物質扱いにしてはいないでしょうか。それは、不明病

氣と、新薬殺入の競争の感があるからでございます。

こんな時代になればなる程、本会々員は、日夜、自他の心身改善の修養を高めて行くことが急務ではございますまいか。

会員のみなさまの、より靈氣療法に対する理解と、認識と、勇氣ある施療の実績が高まれば、自然に

「よいこと、よい療法」

は無限に拡がってゆくと存じます。

本会も、過去には、いろいろ歴史をたどって参りました。本会の有り方が、物足りなくて、独立宣言をし、その後、大活躍をされた先輩もございました。

歴史の流れは、刻々と変わっておりますが、形こそ違え、世間にわが靈氣療法が、各地で活躍していることに変わりはありません。

それでよいのです。

この療法の灯を消さないで、「よいもの」を後世に遺していこうとする私達会員

の努力こそ、世のため、人のため、自己の限りない心身改善の行となって、永続すれば、臼井先生はじめ、数多い先輩の方々は、何時までも霊界から見守って下さることを信じようではありませんか。

臼井先生は、東京高円寺にある西方寺の墓所にて永眠しておられます。

また、第二代会長 牛田従三郎先生

第三代会長 武富 咸一先生

や、全国で物故された、各師範の方々、有能であった会員の方々の、墓所の清掃・献香・献花の行を絶えさせてはならないと存じます。

目下、地方谷支部で活躍しておられる方々におかれましては、いっそうの修養を重ねながら自他の心身改善に邁進すると共に、本会の弥栄を祈念しようではありませんか。

これが、私達会員の使命でございます。

本文中、御不明、お気付き、間違いの訂正追加等重要なことがございましたら、御遠慮なくお知らせ下さいますようお願い申し上げます。

文責 福岡甲旨郎（本部所属）